ISM研究会のお知らせ

File　Edit　Data　Help

99 ISM 研究会

日時

05 月 23 日

14 時 30 分

場所

立教大学 5号館

院生控室 教室

テキスト／テーマ

『明日を支配するもの』

編者／著者	出版社	範囲
P･F･ドラッカー	ダイヤモンド社	第1～3章

前半期 第3回／通算 第59回

ご案内－詳細

今回の範囲について言うと，第1章では，資本自身による資本の古くさい前提の自己否定の問題が取り扱われています。資本が自分自身で措定した諸前提がもはや資本の金儲けの運動には相応しくなくなってしまっているということを，資本は自分自身で暴露しています。次に，第2章では，資本自身による資本の新しい前提の措定の問題が取り扱われています。これに対して，第3章はこのような客体的変革を担うべき新しい変革主体が取り扱われています。

報告者

人名	割当
今井 祐之	第1,2章
浅川 雅巳	第3章

出欠

- ◉ 出席
- ○ 欠席

OK　Cancel　Replace

今回からは，ドラッカーの最新作である『明日を支配するもの』（P・F・ドラッカー，ダイヤモンド社，1999年3月，2,200円）を読んでいきます。この本は紀伊国屋書店で売れ行きNo.1になっている本です。

ドラッカーは社長訓話風に読まれることもできますし，通常，そのように読まれているとは思います。しかし，それと同時に，ドラッカーはナチスから逃れてきた亡命オーストリア人として，鋭いトロツキスト的な視点を以て，これまで一貫してブルジョア体制の正当化問題に取り組んできた人です。当時のオーストリアが左右の社会科学のメッカであったことを思い起こすならば，彼の学問的素養，問題意識，体制危機感が並外れているということは，容易に想像がつくでしょう。西欧マルクス経済学であろうと近代経済学であろうと，フランクフルト学派であろうと論理実証主義であろうと，その心の故郷はウィーンにあったのです。

以前にこの研究会で検討した『ポスト資本主義社会』が“宣言”――『共産党宣言』のパクリ――であったのに較べると，この本はやや実践的になっているのかもしれません。参考までに本書の目次を示しておきます。

第1章　マネジメントの常識が変わる
第2章　経営戦略の前提が変わる
第3章　明日を変えるのは誰か
第4章　情報が仕事を変える
第5章　知識労働の生産性が社会を変える
第6章　自らをマネジメントする
付章　日本の官僚制を理解するならば

今回の範囲について言うと，第1章では，資本自身による自己の古くさい前提の自己否定の問題が取り扱われています。資本が自分自身で措定した諸前提がもはや資本の金儲けの運動には相応しくなくなってしまっているということを，資本は自分自身で暴露しています。とは言っても，古くさい前提に取って代わる新しい前提も，やはり資本が措定する前提である以上，資本の永遠性を示すものではなく，資本の歴史性，資本の過渡的性格をより一層明瞭に示すべきものであるしかないわけです。こうして，第2章では，資本自身による資本の新しい前提の措定の問題が取り扱われています。第1章，第2章が資本の客体的運動そのものの変革を取り扱っていたのに対して，第3章はこのような客体的変革を担うべき新しい変革主体の問題を取り扱っています。

ISM研究会では，今後，取り挙げてほしい――あるいは取り挙げるべき――テキストの候補を募集しています。いいものがありましたら，どうかお教えください。

1999年度 前半期ISM研究会の今後の予定日は，——

06 / 13 (Sun.)

06 / 27 (Sun.)

07 / 11 (Sun.)

です。予定を立てるときに参考にしていただければ幸いです。